

# 30秒で読める！ 渡辺 大新聞 vol. 26

## ■ 子どもの貧困対策②

ふじみ野市内には、小中学生約9000人がおられます。

そのうち、経済的な事情による就学援助を受けている子どもは998人(674世帯)あり、概ね1クラスに4～5人程度の子どもが貧困状態にあることとなります。

日本の教育的支出は、私的負担に依存しています。いわゆる塾、家庭教師です。

そのため、親の所得階層により、子どもの教育費格差が生じています。

貧困により、受けられる教育に差があり、それにより、そもそも子どもが持つ「希望」に格差が生じるという研究結果が出ています。

(国立社会保障・人口問題研究所 阿部彩氏「子どもの貧困」)

そして、希望の格差は、意欲の格差につながるのです。

希望を持ってない子は、意欲も持ってないのです。

意欲がない子どもを本人の努力が足りないと断じることはできないのです。

## ■連鎖する貧困を断ち切るために

親に対する経済的支援、就労支援などは、子どもたちへの間接的な支援にすぎません。

貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもたちに直接教育的支援を行う必要があると考えます。

塾への無料チケット、市による無料補習授業などで学習支援を行うべきと考えます。

**ふじみ野市議会議員**

**渡辺 大(わたなべ だい)**